

## 文化財の保存・活用は地域における文化の香りの醸成から

◆ 建造物文化財以外の有形文化財に絞って文化財問題を述べます。

文化財については活用あつての保存を考えるべきかと思っています。今、文化財の活用としては、美術館や博物館での展示会や子どもへの美術・博物鑑賞の促進、が進められています。しかしながら、いまだに低調であることはいうまでもありません。これは、文化財イコール古いものイコール保管しておくもの、といった認識が残念ながら一般的に定着しているからかと思っています。

◆ そこでまず、今日の事情について私の分析を二点説明します。

第一に、文化財は寺院とかに保管されていて、あまり世間の目にふれないということがあります。また美術館や博物館出の展示会でもお寺さん所蔵ということで、あまり関心が高まってはいません。

第二には、文化財を美術の観点から見る土壌がありません。美術品ということになると（美術が明治以降の西洋美術を基調にしているためか）今風のものには鑑賞する機会が多いのに対して、文化財はいまひとつ市民への愛着といった点では遅れをとっています。

◆ 上記二点をどう捉えるのか。これは、文化財が地味という訳ではなくもっと世の中に日の目を見せるべきことを示唆しています。よって改善としては、文化財をもっと市民生活の中に近づけることと、文化財の価値をもっとあげることを考えたいと思います。具体的に記しましょう。

まずは、美術的価値をもっと見出すということから始めたいものです。これは何も、教育機関にすべてを任すということではなく、ごく普通の日常生活において、美術的香りがするようにしていくべきということです。

次には、市民はもっと地域に目を向けるようにしていきたいものです。日常の地域での営みにおいても、文化財を感じるようにするにはどうすべきか。お寺側に対しては、文化財保全をもっと意識して欲しいと思っています。その意味では、昔の寺子屋ではありませんがもっと行き易い環境づくりが必要であり、加えて寺の所蔵品はお寺保管でなくても良いとして、最近盗難対策も兼ねて、地域歴史館や博物・美術館といったようなハードの整備もまた必要かと思えます。

◆ まとめてみます。要は、地域の中に保存と鑑賞を内在させて、市民には文化財愛着の醸成を狙うのです。このためにハードの整備ということになるかもしれませんが、何も新しい建造物に頼るのではなく、地域コミュニティセンターや公民館などの施設をできる範囲内で活用ということも考えることができますし、それこそレプリカで学校教育現場にも設置ということも考えられます。このように、地域全体に文化財の匂いで満たしたいものです。これをもって、既存の博物館・美術館での展示会が生きてくるでしょうし、子どもへの文化財教育いきてくるというものでしょし、何よりも文化財への愛着が醸成されていくといえます。